

平成26年度 学校自己評価システムシート(各種学校 インストラクトエド ユカシオナルティ-・イレクレーション)

目指す学校像	ブラジル人等の子どもたちに、教育基本法、学校教育法に従い学校教育を行い、社会に貢献できる人材を育成する。
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 日本社会で安心して生活できるように日本語及び日本の習慣を学び、身につける。 ブラジルの母国語であるポルトガル語をきちんと覚えさせる。 社会生活上、パソコンの知識は必須なので早い時期からパソコン教育を取り入れ、しっかりと身につけさせる。 保護者及び地域社会とのコミュニケーションづくりの推進。
------	--

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割以下)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	2名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	6名

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (3月6日現在)		
年 度 目 標					年 度 評 価 (3月6日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 日本で生まれ育った子供たちが多く、家庭環境により日本語能力や学習意欲に大きな格差がある。そのため、個々の能力や意欲に応じたきめ細かい指導が求められている。 日本の習慣、及び伝統・文化について、授業、学校行事等でのように教えていくかが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本語の基礎学習の定着と学習意欲の向上を図る。 日本の習慣、及び伝統・文化の理解。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数学級(複式学級)による一人ひとりにあった授業展開、学習指導。 公共施設の見学や工場見学などを通じて日本社会への興味・関心を引き出し、日本語の学習意欲の向上を図る。 漢字検定や日本語能力試験の受験。 社会科見学を通じ、日本の文化・伝統に触れる機会を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数学級授業、及び一人ひとりへのきめ細かい学習指導による成果。 書道教室、漢字検定試験や日本語能力試験受験による日本語、漢字への興味・関心を引き出し、日本語の学習意欲の向上を引き出せたか。 書道教室、料理教室、踊り、着付けそして社会科見学等を通して、日本の習慣、伝統・文化に触れることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数学級によるきめ細かな学習指導の実現で教師と生徒の信頼関係もでき、日本語への取り組みに改善が見られた。 書道教室を楽しみにする生徒が増え、漢字検定や日本語能力検定を受検する生徒が増えている。 在日外国人子弟の弁論大会に学園として取り組み、5名が大会で発表した。 フェスタで「盆踊り」を行ったり、卒業式で「よさこいソーラン」を踊るなど日本の文化の取り入れに、積極的に取り組んだ。 日産自動車の工場見学、国立博物館の見学の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> 日本の社会で暮らすうえで、日本語の学習は必須であるということを生徒一人一人に理解させ、学習のより一層の充実を図る。 漢字検定、日本語能力試験に引き続き取り組んでいきたい。また、中学卒業程度認定試験にも取り組みたい。 社会見学、博物館等への見学を、実施し、日本の社会への関心を持たせるような取組を行うこと。
2	<ul style="list-style-type: none"> ブラジル人学校に通う児童生徒は、将来ブラジル本国へ帰国を考えている保護者が比較的多い。そのため、帰国後に母国語が話せない、本国の学校に編入後、勉強についていけない、という事のないようにポルトガル語、必須科目等をしっかり教えるのが課題である。 また、ブラジル本国の習慣・伝統・文化についても授業・学校行事等に取り入れて教えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 母語・ポルトガル語の基礎学力の定着、学習意欲の向上。また、本国同様のカリキュムを組み一層の教育の充実を図る。 母国ブラジルの習慣、及び歴史・伝統・文化の理解。 	<ul style="list-style-type: none"> 本国の教科書を使用し、本国同様のカリキュラムでポルトガル語は週5H、他の教科もポルトガル語で教えている。 加えて日本語の授業もあるので1日授業を実施。 ブラジル本国の文化保持のため祝祭日、フェスタ、ハロウィン先生の日等、学校行事に取り入れる。 昨年に続き、本国の歌手によるブラジル音楽の指導等により、伝統・文化に触れる事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 本国の教科書使用、本国以上のカリキュラムを組み、母語ポルトガル及び他教科の教育に力を入れてきたが、基礎学力、学習意欲の向上に結び付いたかどうか。 母国ブラジルの習慣、歴史、伝統・文化の理解はどうだったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校部が11月にブラジル政府より、認可され、2月には各種学校の認可も出たので、生徒もブラジルの教育がより一層学びやすくなった。 6月のフェスタでは、生徒がダンスなどに積極的に取り組み、ブラジルの伝統文化を楽しむことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 高校部の認可が出たことにより、これから一層ブラジルとの橋渡しができるようにカリキュラムを充実させ、ブラジルに帰国しても違和感なく溶け込めるような教育内容、レベルを保てるようにする。 今年はワールドカップがブラジルで開催されたこともあり、ブラジルへの関心が高まったが、引き続き本国の習慣、文化等を授業の中で積極的に取り入れる環境を整えていく。
3	<ul style="list-style-type: none"> 幼から高校生まで年齢層に幅があるため、主に下記のように授業展開している。 <ul style="list-style-type: none"> 幼～小3 ゲーム、ペイントを利用したお絵かき等。 小4～6年 パワーポイント画像処理等。 中～ エクセル計算・関数、グラフ、図形等。 全体 ワード 文書の作成等。 情報(パソコン)の授業だけでなく、各教科内でも必要に応じてパソコン(ネット)使用。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年にあったパソコン(ソフト)が利用できるかどうか。 インターネットで自在に課題を調べたり、展開できるかどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年に見合うような、問題を情報の授業だけでなく、各教科の中でも実施。数学はエクセルで、表計算、グラフ等を作成させる。社会・歴史では課題を出しインターネットを利用して子どもたちに自主的に調べさせる。芸術では写真、画像処理など。 教員の指導のもと、インターネットを使ったブラジルの通信教育を活用し、学習効果を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年にあったパソコン(ソフト)が十分に使用できるようになったかどうか。 授業で出された課題について、インターネットで調べられるか、また充分展開できるかどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> パソコンの使用はインターネットを使った課題については、小学中学年からは上手に使いこなせるようになった。 基本的に自分に興味あるものについては積極的にあるが、エクセルを使った表計算などは、不十分なところが見受けられる。 ブラジルのインターネットを使った学習により、ブラジルの現在の問題点等が 	B	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も引き続き、年齢に応じたパソコン使用を行い、身近のものとして、活用させていきたい。 高学年の生徒には、ワード、エクセルを使った授業を充実させる。また、低学年の児童たちのは、お絵かき等のゲーム的なおソフトを活用し、楽しみながら使えるようにしていきたい。
4	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの通学範囲が広域に及び、特に遠距離の保護者は直接来園して教育活動を見聞する機会が少ないので、インターネットを活用し、発信する。 地域社会や公立学校との交流、及び情報の発信を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、地域社会、公立学校に開かれた学園づくりの推進。 	<ul style="list-style-type: none"> 学園のホームページによる情報の発信。一ポルトガル語版及び日本語版の一層の充実(子どもたちの学園生活、行事等の写真、動画等掲載)。 学校行事等への保護者・家族参加、地域・学校への参加呼びかけ。豚の丸焼き祭、JUNTA、ウナ上里実施の祭等のポスター掲示、チラシの配布。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの毎年の更新(特に日本語版)、内容を充実してきたかどうか。 学校行事等への保護者、家族の参加、地域住民・公立学校の子どもの参加はどうかだったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事や学習風景をホームページ上で公開し、保護者等に適切な情報提供を行うことができた。 フェスタや卒郷式に保護者の多くが参加し、学園との交流を図ることができた。 行事の度に近隣の方々に参加をお願いしているが、参加者は少ない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の通学範囲が広域なので、これからはインターネットを使った情報の発信を行い、学園の「今」を情報発信すると共に、メールを使っての双方向の交流も図って行きたい。 学校行事等への保護者の参加を引き続き呼びかけていく。 地域との交流ができるよう、方策を探行きたい。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成27年3月26日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 各種検定や料理作りの体験学習を契機に、日本語学習に積極的に取り組む姿が見られるようになったことは、一定の成果と言える。日本の生活の中で、日常的な日本語を話せるようにすることが今後の課題。 日産自動車の工場見学は、実際に車が作られる所が見られ働く音とを身近に感じて、とてもよかった。また、国立科学博物館は、いろいろな学習遊具もあり楽しかった。 盆踊りやヨサコイなど日本の祭りのパフォーマンスを取り入れたり組を今後も続けていきたい。 在日外国人弁論大会などのようなものがあれば今後も積極的に参加させ、他の地域、国籍の人たちとの交流を図ってほしいと思います。 	
<ul style="list-style-type: none"> ポルトガル語の学習に関しては、家庭での日常会話でも使っているのほとんどの生徒は上手に話することができる。ただ、教科の学習に関しては、個々の生徒で、学習意欲に差がみられる。幸いにも生徒数が少ないので、少人数で細やかな指導を心がけて、全体のレベルアップを図っていきたい。 親の仕事の都合などでブラジルに帰国したり、転向する生徒がいるが、学習の基本だけはしっかりと教えていきたい。 フェスタ、ハローウィン、クリスマスなどブラジルの伝統文化を取り入れた学習は、ブラジル人としてのアイデンティティを保つ上でとても有意義なことなのでこれからも続けてほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> 小学校の低学年の児童たちも楽しんでパソコンを操作しているのは、よいことだと思う。 グループ学習で、上級生がパソコンを使っていろいろ調べてくれたり、一緒に調べるのはとても楽しかったです。 子供たちが関心、興味を持つことに関しては自主性を尊重して、伸ばして欲しい。また、苦手なことでも必要なことは、しっかりと教えて欲しい。 	
<ul style="list-style-type: none"> 生徒募集にHPIは欠かせない存在だと思う。できるでけ沢山の子供たちの学習の機会を作るためにも、ホーム・ページの充実、欠かすことができない。 体育館を使った行事では、いつも近隣の住民の方々に参加を呼びかけている。これからも続けて欲しい。 各学期ごとの保護者との懇談会は、学校での子供の様子や学習の進捗状況を知るのに、とてもよい機会だと思う。これからも積極的に開催して欲しい。 体育館でのフットサル教室は日本人の子供たちと交流する良い機会です。これからも是非、続けてください。 	